



東小学校だより

木 洩 れ 陽

令和3年9月6日 No.6

文責 校長 瀨砂一徹

2学期が始まりました。今年の夏休み期間は長雨にたたられ、思い切り遊ぶ機会が少なかったかもしれません。今後、熱中症に気を付けながら、広々とした運動場で思い切り体を動かさせてあげたいと思います。

さて、学期はじめということで、学校では清掃場所の交代や登校班長会等があります。各学級では新しい係活動、給食当番も始まったことでしょう。新たな気持ちで始まった2学期を、充実したものにしていきたいと思います。

【「感動の言葉」を発すること」を大切にする】

形のある固有物は、具体的な姿を見ることができます。ところが、「美しい」とか「おいしい」、「嬉しい」といった“感動の言葉”は目に見えない抽象的な概念です。一人一人が個々の事例をもとに、自分の心の中にイメージをつくりあげ、一般化する必要があります。

先に述べた「美しい」という言葉を例に考えてみます。雨上がりの空にかかる虹やはらはらと舞い散る花びらや木の葉、山の端に沈みゆく真っ赤な夕日などを見て、誰かが「美しいねえ」と何気なく発するとします。すると、それを聞いた子どもたちは「美しい」という言葉のもつ意味をおぼろげにつかみ、その概念を理解し始めます。そして、同じような場面を見たときや感じたときに「美しい」という言葉を試しに使い、周りの者に認められることで、やがて、使いこなすようになっていく。

このように考えると、我々大人が“感動の言葉”を発することで、子どもたちの世界が彩り豊かなものになっていくのではないかと思うのです。

詩の暗唱を通して・・・

4年生の教科書に高田敏子さんの「忘れもの」という詩が載っています。

“入道雲にのって 夏休みはいつってしまった

「サヨナラ」のかわりに すばらしい夕立をふりまいて…”

始業式でこの詩を紹介し“暗唱に挑戦してみませんか”と子どもたちに話しました。先日、ある児童が早速校長室にやってきて、見事暗唱することができました。晴れやかな表情で校長室を退出していきました。

